

令和7年度 第1回静岡市生涯学習推進審議会（書面開催） 会議録

1. 日時 令和7年8月8日（金）から11月25日（火）まで

2. 参加者

【委員】 15名

新井委員、石切山委員、石渡委員、板谷委員、磐村委員、大石委員、亀山委員、小山委員、澤本委員、竹上委員、角替委員、西委員、山下委員、山本委員、渡邊委員

3. 議事

- （1）会長の選任について
- （2）第3次静岡市生涯学習推進大綱について
- （3）リーディングプロジェクトの事業紹介

4. 会議内容

議事（1）については、静岡市附属機関設置条例第6条及び別表第1に基づき、会長は委員の互選により選任することになっています。委員の皆様には回答書にて、「事務局に一任する」または「委員を推薦する」のいずれかを選択いただきました。その結果、**別紙1**のとおりとなりました。大多数が事務局一任とのご回答であったため、今期（令和7・8年度）の審議会では大綱の中間見直しを付議する時期であることから、生涯学習審議会の経験があり、社会教育の知見も豊富な角替先生に会長を打診したところ、快くご承諾いただきました。

また、副会長の選任については会長の指名により選任することとなっており、角替会長から新井委員をご指名いただきました。

議事（2）（3）については令和7年8月8日（金）から11月25日（火）までにご意見・ご質問をいただき、**別紙2**のとおり回答いたしました。

第1回書面開催（まとめ）

No.	期数	氏 名	会長の選任
1	2	角替 弘規	事務局に一任
2	2	新井 浩子	事務局に一任
3	2	亀山 正敏	事務局に一任
4	3	西 美有紀	事務局に一任
5	3	小山 弘子	事務局に一任
6	1	石渡 裕子	事務局に一任
7	1	澤本 由美	事務局に一任
8	3	山本 雅司	未回答（事務局に一任）
9	2	大石 真也	事務局に一任
10	1	板谷 浩禎	事務局に一任
11	2	磐村 文乃	事務局に一任
12	1	竹上 勝司	事務局に一任
13	3	渡邊 正英	新井 浩子
14	1	山下 あやね	事務局に一任
15	1	石切山 蘭	事務局に一任

No.	氏 名	意見・質問	項目	内容	回答
1	亀山 正敏	質問	生涯学習に関する質問(資料1、大綱P1.2.5.6.7)	<p>(1)生涯学習の意義、目的(何のために生涯学習を進めるのか)について以下の通り試験的解釈を試みたが適正でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しさや利益が得られることには人が集まる。そこで、人が集まる賑わいを創出するために「学ぶ」という意識の醸成・機会の創出・支援の増加を行う。 ・面白いと感じることがあれば人は集まりその場が活性化して賑やかになり、将来の人口増大にもつながる。 ・「学ぶ」ことにより心身が健全に育つ。自らが不足している部分を補い新しい技術が取得できる。 ・生涯学習の推進は、人生100年時代の中で長く健康的な生活続けること、そして人が集まり賑わう街づくりをするため。 ・健康で長く生きて行くためには、社会の仕組みや流れを学ぶ必要がある。(食べ物などを安く手に入れる、災害を回避するなどの方法を身に着ける等)必要がある。 	<p>静岡市では、市民の自発的な学習活動を支援することにより、学習活動を通じて地域の交流及び連携を図り、もって市民主体のまちづくりを推進することとしていますので、委員の御意見は上記内容に沿っているものと認識します。</p>
2	亀山 正敏	意見	生涯学習に関する質問(資料1、大綱P10)	<p>(1)成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・客観的な数値で表すためには、世論調査(アンケート)などにより利用者数を捉えることが主な方法と思われますが、数字だけで表せない“意見”なども評価対象にして下さい。 ・生涯学習センターの利用率(稼働率)を高くすることだけに捉われないような注意が必要だと思います。(利用率が全てではない) ・生涯学習センターの利用者は学習意欲が高いため、この点に配慮して評価すべきだと思います。 ・データーは年令、地域(中学校区)で分けて検討すべきだと思います。 ・課題としている若年層学習者の増加は、課題の内容をさらに分析する必要があります。特に、働き盛りの年代では、入社直後・中堅社員・管理職など職階によって学習の機会や意欲が異なると思います。 	<p>質的評価における成果指標としては、毎年度指定管理者による講座の満足度をアンケートで取り、集計しています。生涯学習センターの満足度は年92%程度、清水区生涯学習交流館は年95%程度と高い水準で推移しています。市民意識調査のデータはクロス集計を活用して分析していくよう検討します。</p>
3	亀山 正敏	質問	資料2、スケジュール	<p>(2)市民意識調査の内容は、本審議会ではいつ、どんな方法で示していただけますか。</p>	<p>市民意識調査は10月に実施しておりますが、定点調査に近いものなので内容は審議会に付議しておらず、12月下旬の第2回審議会にて速報値をご報告します。</p>

No.	氏 名	意見・質問	項目	内容	回答
4	亀山 正敏	意見	資料2、スケジュール	<p>(2)市民意識調査（アンケート調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査設問事項は高校生が正確に理解できるように例示などする必要があると思います。 ・民間カルチャースクールで学ぶ人も市の生涯学習センターで学ぶ人を含めてデータ进行分析するとさらに正確になると思います。 ・目標は必要ですが数値には落とし穴があるので分析には注意が必要です。（数にとらわれる、数を増やす方策に重点を置く、数値の見方が偏る） 	<p>ご意見ありがとうございます。御意見を参考に、分析については丁寧に進めていきます。</p>
5	亀山 正敏	意見	資料3 リーディングプロジェクト事業の紹介（P1.3、大綱P35.36）	<p>リーディングプロジェクト</p> <p>①市内6大学との連携をさらに強化するとよいと思います。例えば、学内設備（駐車場、食堂、体育館等）の利用を可能にするなどです。</p> <p>②民間のカルチャースクール（〇〇学苑、〇〇カルチャーなど）の講座と重ならないようにするとよいと思います。学習の機会が多様化しており、様々な立場と年齢層の利活用或いは要望があると思います。</p> <p>③小学校の空き教室を積極的に利活用できるとよいと思います。（体育館やグラウンドの利用方法に準じて行う）</p> <p>④「終了証明」を学習歴とすることで学習したことの価値が高まる仕組みが必要だと思います。</p> <p>⑤学習歴の活用方法もあらかじめ検討しておく必要があると思います。</p> <p>⑥学習したことでの自己満足に終わらせない仕組みを作ることとも検討しておきたいです。</p>	<p>①市内6大学との連携について 各大学にて市民向けに講座やイベント、授業などが展開されており、市民に開かれている市内6大学の取組みを市が大学連携としてワンストップに情報提供を図って行きたいと考えています。その先に、市民の学内設備利用の可能性を市内6大学と大学との連携会議で議論できればと思います。</p> <p>②ご意見のとおり、民間のカルチャースクールとのすみわけについては、課題と認識しております。10月8日市長定例記者会見で発表した「生涯学習・健康増進に関するサービス内容や提供場所の最適化検討」の中で、検討を進めています。</p> <p>③ご意見のとおり、小学校の資産利用については、できると良いと思いますが、一方で、子どもの安全確保のためのセキュリティの課題もあるため、容易に利活用を進めることは困難です。</p> <p>④⑤⑥「修了証明」「学習内容証明」「学習履歴」を電子的に提供できる「オープンバッジ」を、今年度から「静岡シズンカレッジこ・こ・に」登載講座で導入しています。修了後に就職活動やキャリアアップ、地域活動などで習得した知識や技能を証明することができるようツールとして、活用が期待できます。今後は、生涯学習施設の講座においても、講座を受けた修了生を支援する仕組みとして拡充していきたいと考えています。</p>

令和7年度 第1回 静岡市生涯学習推進審議会(書面開催) 委員からの意見・質問及び回答

別紙2

No.	氏 名	意見・質問	項目	内容	回答
6	小山 弘子	意見	資料3 リーディングプロジェクト事業の紹介	「ここに」が大幅に見直されたことで、「意識の醸成」から「人材の養成」へと達成水準もレベルアップし、より実践的な講座が増えたと思います。市民がまちづくりの原動力になるためには、実践的学びは非常に重要であると考えます。今後の「ここに」に期待したいと思います。同時に、「意識の醸成」や「知識習得」を望む声にも引き続き対応いただけることを望みます。	ご意見ありがとうございます。 「意識の醸成」や「知識習得」の講座については、生涯学習施設で展開していきたいと考えています。
7	澤本 由美	意見	資料1 1-5・6・7	若い世代の学びを見直す視点が非常に良いと思いました。静岡市を魅力ある市にしていくためには、高齢者だけでなく若い世代の学びにも目を向けていく必要があると思います。キャッチコピー「わたしごとをアップデート！」もわかりやすく良いと思います。	ご意見ありがとうございます。 今後も若い世代の学びやリカレント教育を推進させることが大事だと考えています。
8	澤本 由美	意見	資料3 リーディングプロジェクトの紹介	プロジェクトの内容が分かりやすくまとめられていますが、資料11 19)にある年代や国籍、障害の有無など様々な属性をもった市民への配慮が見えにくいと思いました。 ※例えば「こ・こ・に」の講座内容に日本語が話せない外国籍の方向けの日本語講座 等 があると良いと思いました。	ご意見ありがとうございます。 資料19に関連しては、生涯学習施設で「誰一人として取り残さない」社会的包摂の実現に資する障がい者や外国人、性的少数者への理解を促進する講座等を開催するよう努めていきます。
9	澤本 由美	意見	「こ・こ・に」 の見直し②	若い世代や経済活動を支える方たちに向けてのキャリアチャレンジ学部は8講座新設されたことは、講座内容を見ても今の時代を意識されたものであり非常に良いと思いますが、キャリアチャレンジ学部は16講座から11講座となり、新設が8講座であるなら、13講座が廃止になったこととなります。どんな意図でその13講座を廃止し8講座を新設したのか説明があると、より目指す方向性が明確に伝わってくると思いました。	非登載とした講座については、初級・入門の講座で、生涯学習施設での展開へと移行しています。 例えば、「仕事に生きる自己形成とマネジメント入門講座」「専門用語を使わないマーケティング入門講座」などです。 その上で、より高度な講座を開発し、8講座を新設いたしました。
10	磐村 文乃	質問	資料1 1-11 将来像 大綱 P.9	「だれもが、いつでも、どこでも学び、学んだ成果を活かすことのできるまち」を目指した環境整備、安心安全な生涯学習の場づくりはどのように進められていますか。	将来像に基づき、8年後の目指す姿を達成するための推進計画を進めています。 具体的には大綱P35、36の体系図のとおり施策の柱ごとに紐づく事業を行っています。

No.	氏 名	意見・質問	項目	内容	回答
11	磐村 文乃	質問	資料1 1-19 施策を進めるうえで大事にしたい視点 大綱 P.16	1.年代や国籍、障害の有無など様々な属性をもった市民一人一人へ配慮すること どのように配慮されていますか。 外国人住民が参加し、市民と交流して活躍できる場となっているでしょうか。	国際交流協会ではSAME国際塾を実施しており、様々なトピックから多文化共生について考え、地域のサポーターとして活動する手がかりを共有しています。「ことばと文化のサポーター」により異なる言語や文化を持つ人々とのコミュニケーションを支援、相互理解を深めるための人材登録制度を実施しています。市教育委員会においても多文化交流会や特別支援交流会を実施し共生教育における推進体制の構築にも力を入れています。
12	磐村 文乃	質問	資料2；市民意識調査実施報告	今年度10月実施の市民意識調査について、概要を教えてください。	市民意識調査は10月に実施しておりますが、定点調査に近いものなので内容は審議会に付議しておらず、12月下旬の第2回審議会にて速報値をご報告します。
13	磐村 文乃	質問	資料3 リーディングプロジェクト2 シン「こ・こ・に」プロジェクト	(1) 静岡シチズンカレッジこ・こ・に推進 今年度、キャリアチャレンジ学部と地域チャレンジ学部の講座が大幅に見直されましたが、その影響はどうですか。従来継続的に実施されていた講座等はどのようなものになりましたか。 「こ・こ・に」講座について、市民企画公募制等も検討していただきたいと思います。	キャリアチャレンジ学部では、初級・入門の講座を高度・専門的な講座に入れ替えを行い、初級・入門の講座については、生涯学習施設での展開へと移行しています。 従来より継続的に実施されていた講座が多数を占める、地域チャレンジ学部では、全庁的に取組みをしている「事務事業の廃止・見直し」により、講座実施の効果を適正に判断し、所管課にて廃止を決定しています。 例えば、「多文化共生サポーター養成講座」「こころのバリアフリープロモーター育成講座」「静岡市お茶の学校」などです。 いずれも施策を展開する上で、手法としての講座実施が見直されたものとなります。 市民企画公募制については、「こ・こ・に」の取組検討の参考とさせていただきます。

No.	氏 名	意見・質問	項目	内容	回答
14	磐村 文乃	質問	資料3 リーディングプロジェクト3 生涯学習DXプロジェクト	(1) デジタル学習環境整備 オンデマンド・ハイブリッド講座開設の状況はどうでしょうか。	オンデマンドやアーカイブでの講座配信については、実施していません。 会場とオンライン配信を同時に行うハイブリットでの講座は、Reまなび大学リレー講座や高齢者学級合同講演会で実施しています。 講義形式の講座においてオンライン配信は、学習機会を拡げる手段として可能性があると考えており、今年度は、上記2講座を井川生涯学習交流館へ配信し、遠隔施設でのサテライト会場としての開催を試行的に実施しています。
15	磐村 文乃	質問	資料3 リーディングプロジェクト3 生涯学習DXプロジェクト	(2) スポーツ・生涯学習施設予約システム更新 キャッシュレス決済に対応した新たな予約システム開始により、利便性は向上しましたか。キャッシュレス決済はスムーズでしょうか。当初ネットで予約した後、変更・キャンセルできず、窓口に支払いに出向かなければならなかったという声も聞かれました。	キャッシュレス決済について利用している団体が一定数おり、支払方法の選択が増えることで利便性は向上しています。また、マイページにお知らせ機能が追加され、周知する際により確認しやすい環境となったり、予約画面も見やすいレイアウトになって使いやすくなったという声を聞いています。新システムにおけるキャンセルについては、当初1か月前までのキャンセルを可能としていたものを、現時点では7日前までのキャンセルを可能として運用改善を行いました。
16	渡邊 正英	質問	資料3 ここに	前年度から講座内容を大幅に見直し、特にキャリアチャレンジ学部のメニューに新規講座が目立つ中で、すでに開講がされている講座の参加者数と受講者の性別・年齢を支障のない範囲でお聞かせ願いたい。	現在、受講生情報の管理システムの移行作業中です。他課が実施している講座の情報は年度末までに把握する予定です。 当課主催の3講座については、受講生が合計で27名、性別は男性63%、女性37%、平均年齢42.9歳です。

No.	氏 名	意見・質問	項目	内容	回答
17	渡邊 正英	意見	資料3 社会人基礎力講座	毎年、手を変え品を変え多彩な講座をエントリーされているが、例えば昨年開催されたある講座では、人数は集まったが、学んでほしい人とはおよそ異なる人々が参集され今いちだったとの声を聞いた。想定する参加者のイメージ像を掲げるなど、真に役立つ講座にするための一工夫が必要ではないか？ 定量で評価するのみでは、成長や進化・発展が期待できないと考えます。	当該講座については、人生100年時代に入突する社会情勢の中、生涯学習施設の利用者のほとんどが働いている人となりうることを想定し、働いている人に資する講座や参加しやすい講座の構築を目指すものであります。 その中で、ただ単に働いている人向けといっても生涯学習施設での講座構築が難しいことから、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」を身につけることができる講座を展開しています。 社会人基礎力講座は、令和5年度より取組みを開始しており、今はまだ過渡期にあると考えています。参加人数や参加状況という指標も大切と考えますが、それ以上に「働いている人」に向けた講座のブラッシュアップと継続実施による「大人の学び」の醸成を目指しています。
18	山下 あやね	意見	資料1 1-8現状と課題(2)	働きながら参加しやすい仕組みづくりが挙げられ、現役世代向けに平日夜の講座なども設定されてはいるが、子育て世帯としては子どもが小さいうちは夜間の講座はオンラインであっても受講が難しい。今の方針では現役世代≠子育て世帯となっていることに留意いただきたい。家族の介護がある人ももまた似た状況ではないだろうか。	市民意識調査では学びができない理由の上位に「時間がない」(育児・介護含む)という回答があります。オンラインやながら学習などの推奨もされておりますが、ご指摘のとおり集中できず身につかないということは考えられます。 ご意見ありがとうございます。
19	山下 あやね	意見	資料3 リーディングプロジェクト1 “Reまなび” プロジェクト	社会人対象の講座については、競合するのはYoutubeとTikTokと情報商材ビジネスではないかと常々感じている。市の講座を利用すれば情報の出所がしっかりしていること、詐欺に誘導される可能性がないこと、費用がかからないことをもっとアピールしてもいいのではないだろうか。引いては消費者トラブルを未然に防ぐことにもつながるのでは。	ご意見ありがとうございます。 いただいたご意見のような、市の講座の有用性をよりアピールできるよう、努力していきたいと思います。

No.	氏 名	意見・質問	項目	内容	回答
20	山下 あやね	意見	資料3 「こ・こ・に」の 見直し②	<p>見直し後を見ると、求められるハードルが高いと感じる。唯一この到達点を目指します！としてしまうと、私だったら『自分じゃ無理だな』と感じる。ここまで書かれると、生活に時間的にも金銭的にも余裕のある人しかやってはいけないような気がする。これでは見直しによって受講の心理的ハードルを上げてしまっている。</p> <p>ライフステージのうち常に余裕のある人などほとんどいないわけで、求める人物像の両輪として“今は「ちょこっと」やりたい”という人もキープしておくような枠の設定が絶対に必要だと思う。細く長い関わりを続けることで、いつかメインを張れる人が育つ。即主役（原動力）になる人だけを求めるのではなく、いつか主役になれるけど今はわき役でという人を育てておく視点を持っていただきたい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>ご意見のとおり、「ここに」単体を見られた場合、心理的なハードルを感じてしまう方もいると思います。</p> <p>今回の見直しについては、「ここに」のブランディングという意味もあり、学ぶ意欲のある市民に向けて、市が実施する最上位の人材養成は「ここに」にあると認識をしてもらえればと考えております。</p> <p>ご指摘の内容のフォローとしては、十分ではないかもしれませんが、ここにのパンフレットの27～30ページに生涯学習施設で展開する初級・入門の講座群を掲載しております。</p> <p>生涯学習施設で展開する講座も含め、さまざまなニーズにお応えできる講座の構築を考えていければと思います。</p>

No.	氏 名	意見・質問	項目	内容	回答
21	山下 あやね	質問	その他	<p>アイセル21の貸館について窓口が分かれたことにより不便があると聞いている。利用者の利便性を下げても変更しなければならない事情があったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の団体が使用する日に、ロビーで一覧を見るが、紙が2枚に分かれて分かりにくい。 <p>以前のように館内の配置と同じ並びにして掲示してくれた方が感覚的に理解しやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでは同じ窓口で両方の施設の予約ができていたが、予約する部屋(施設)によって、わざわざ別の窓口に行かなければならない。手間が増えた。 <p>→使いたい部屋が決まっており空いている日を予約するのであれば担当の窓口だけで済むが、</p> <p>「この日のこの時間に空いている部屋をどこか予約したい」というときには窓口をはしごして予約をしている。</p> <p>インターネット予約だけでなく窓口予約を生かしている以上は、この不便が発生しています。</p> <p>また、直接的に困っているというよりも、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでは一か所の事務所で行えていた同じ施設の貸館業務をわざわざ分けるのは、労力や人件費が無駄ではないか。 <p>という考えをお持ちの方もいる。</p> <p>全体として、「自分たちは“アイセル”を借りたいのであって、どの部屋が生涯学習センターで女性会館なのかは意識して利用していない」</p>	<p>アイセル21は、静岡市女性会館と葵生涯学習センターの複合施設であり、それぞれ異なる団体が管理・運営を行っています。</p> <p>昨年度に両施設の条例に則った窓口体制の検討を行った結果、今年度から受付手順を改め、窓口での受付はそれぞれの指定管理者の事務室で行うこととなりました。</p> <p>しかし、市民の皆様にご不便をおかけしてしまっている現状に鑑みまして、現在窓口の一本化を含む窓口体制の再検討を行っております。</p> <p>今後とも市民の皆様にご利用いただけるよう、市民サービス向上に努めていきます。</p>